



鬼さんには負けないぞ！ ～永田保育園 豆まき～

2月3日に永田保育園で節分の豆まきが行われました。和太鼓の合図で鬼たちが教室に入ってくると、怖がりながらも豆に見立てた新聞紙を「おには～そと！」の掛け声にあわせて必死で投げつける子どもたち。しかし、手持ちの豆がなくなると、教室の隅に逃げ込み、思わず泣いてしまう子の姿も。その後、鬼たちが逃げ、福の神が現れると、園児たちの表情が一瞬にして明るくなり、うれしそうな笑顔を浮かべていました。



オンリーワンの作品作りに熱中！ ～なべかけ保育園 芸術家派遣事業～

2月5日、作新学院大学女子短期大学部の花田千絵准教授を講師に迎え、なべかけ保育園で木工図工のワークショップが行われました。

子どもたちは、目の前に並べられた木片や枝、流木に興味津々。船や車、信号機、鉄砲など、素材の形を生かした個性あふれる作品が次々と生まれました。子どもならではの柔軟な発想と「ここぞ」というときの集中力に、保育士の先生たちも改めて驚かされていました。



市の魅力発信に向け意見交換 ～台北駐日経済文化代表処横浜分処長来訪～

1月24日、以前から市長と親交がある台北駐日経済文化代表処横浜分処*の張淑玲処長が市役所を訪問。観光、インバウンドを中心に活発な意見交換が行われました。市長から「本市は生乳の生産額が本州一位。このまちの牛乳などが台湾に並ぶのもそう遠くないと感じる」と伝え、処長からは「台湾から多くの方が那須塩原市を訪れている。さらに交友を深められればうれしい」と温かい言葉をいただきました。 *中華民国の日本における外交の窓口機関



黒磯図書館で最後の思い出を ～黒磯図書館 おはなしいっぱい人形劇～

3月末で32年の歴史に幕を閉じる黒磯図書館。長年の利用に感謝を込めて「ありがとうレインボー企画」が開催されました。その一環で催された1月26日の「おはなしいっぱい人形劇」には、黒磯図書館で最後の思い出を作ろうと多くの親子連れが参加。人形劇やエプロンシアターなど、ベテランのパフォーマンスに子どもたちはすぐに引き込まれ大はしゃぎ。7月に開館する新しい図書館でも、多くの子どもたちの笑顔が見られることでしょう。



子どもたちの成長した姿に感動 ～大山小 1/2成人式～

大山小学校の授業参観日だった2月12日、4年生の教室では「1/2成人式」が行われました。

子どもたちが10歳の節目に自分自身を振り返り、成長した姿を保護者に見てもらうために実施しているこの取り組みは、今や大山小4年生の恒例イベントに。元気いっぱい「とちぎの子ども育成憲章」を唱和したり、大きな声で将来の夢を発表したりする子どもたち。そのたくましく成長した姿を、保護者の皆さんは微笑ましく見守っていました。



真剣勝負！ 繰り広げられた熱戦 ～第65回 関東北かるた大会～

2月2日、小倉百人一首競技かるた大会である「関東北かるた大会」が、いきいきふれあいセンターで開催されました。

渡辺市長の試読式でスタートした今年は、県内外から過去最多の167人が参加し、その8割が高校生以下というフレッシュな大会となりました。抜群の反射神経と集中力で、素早く札を払う様子は迫力満点。子どもから大人まで楽しめる競技かるたの魅力、存分に楽しんだ1日となりました。



市長と高校生、若手経営者が意見交換 ～みちたろうTOわくわくトーク～

市長と気軽な意見交換をする「みちたろうTOわくわくトーク」。市内の若手経営者（市商工会青年部）との共催で、高校生を対象にワークショップが行われました。雇用や教育、子育てなど分野ごとに5つのグループに分かれ、若手経営者と高校生が未来のまちづくりについて熱い議論を展開。「勉強ができるカフェが欲しい」「デートできる場所が少ない」など高校生目線でのアイデアがたくさん出され、活気のある意見交換となりました。



灯籠の優しい明かりにほっこり ～塩原温泉 竹取物語～

今年で5回目となる塩原温泉の冬の風物詩となったライトアップイベント「塩原温泉竹取物語」。その点灯式が1月25日に塩原もの語り館で行われました。温泉街の住民が10月から孟宗竹を切り出し、乾燥や穴あけなどの作業をして、約1,000本の竹灯籠を塩原もの語り館や妙雲寺参道などに設置。灯籠に色とりどりの明かりがともると、夜の温泉街は一層幻想的な雰囲気に包まれました。このライトアップは、3月31日まで行われます。